

都市再生整備計画 事後評価シート
北陸新幹線(仮)上越駅周辺地区

平成24年3月

新潟県上越市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	新潟県	市町村名	上越市	地区名	北陸新幹線(仮)上越駅周辺地区			面積	376ha
交付期間	平成19年度～平成23年度	事後評価実施時期	平成23年度	交付対象事業費	4,118	国費率	0.4		

1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名							
	基幹事業		道路(市道大和上中田線、市道大和二丁目5号線、市道大和二丁目3号線、市道大和二和三丁目線、市道上門前大和線、東城町脇野田線、区画道路)、公園(釜蓋歴史公園)、下水道(汚水:高田南部処理地区、雨水:脇野田第二・第三排水区、排水路)							
	提案事業		信越本線移設事業、街並み形成活動推進事業、まちづくり情報発信事業							
			事業名		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
	当初計画から削除した事業		基幹事業		公園(釜蓋歴史公園)			釜蓋歴史公園に関する事業を関連事業としたため基幹事業から削除		影響無し
	新たに追加した事業		基幹事業		高質空間形成施設(自由通路、駅前広場シェルター)			駅前広場に利便性の高い歩行者動線を確保することにより魅力を向上するため追加		影響無し
		提案事業		地域生活基盤施設(調整池)			雨水排水施設整備の進捗状況にあわせて整備時期を先行するため追加		影響無し	
		提案事業		釜蓋遺跡公園整備事業 事業効果分析及びまちづくり方策検討調査事業			関連事業の釜蓋遺跡公園整備事業の推進を図るため追加 第1期事後評価分析に基づいた第2期計画を策定するため追加		影響無し	
交付期間の変更		当初	平成19年度～平成23年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響						
		変更	平成 年度～平成 年度							

2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
指標1	生活道路に対する満足度	%	38.8	H18	40	H23		24.2	△	あり なし	● ●	平成27年内
指標2	釜蓋遺跡及び駅周辺まちづくりへの関心度	人/5年	0	H18	400	H23		450	○	あり なし	● ●	—
指標3	住宅の新築軒数	軒/5年	99	H18	120	H23		122	○	あり なし	● ●	平成24年4月頃
指標4	まちづくり協議会等の開催数	回/5年	20	H18	40	H23		62	○	あり なし	● ●	—

3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
その他の数値指標1	道路整備による道路環境の改善	%	—	—				68			道路の安全性や利便性など向上し、道路環境が改善され、道路整備の一定の効果があった。	—
その他の数値指標2												

4)定性的な効果発現状況

- 住民アンケートでは、道路整備が完了した路線について、道路が広くなり車両や歩行者の安全性・利便性(特に通学路での安心感)が向上したこと及び、冬期積雪時の通行や除雪がしやすくなったとの意見が複数寄せられた。
- 遺跡に関するシンポジウムは回を重ねるごとに参加者数が増加し、当地区のまちづくりへの関心が高まるとともに、「遺跡をまちづくりに生かそう」という住民の機運が高まった。
- まちづくり協議会等の開催により、良好な市街地形成を実現するための「地区計画案」が策定され、また住民主体で土地利用を推進するための「地権者組織の設立」に向け具体的な検討が行われた。

5)実施過程の評価	実施内容		実施状況		今後の対応方針等	
モニタリング	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた			
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			
住民参加プロセス	「地区計画に関する地権者代表者会及び検討会」 「商業地域土地利用促進協議会」 「上越市新幹線駅周辺地区まちなみ検討会議」 「上越市北陸新幹線建設促進まちづくり協議会」		都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	住民参加により作成した「地区計画案」や「新幹線新駅周辺地区まちなみ形成構想」に基づいて、上越らしさを活かした駅周辺施設の整備、統一されたまちなみ形成により、良好なまちづくりを推進する。	
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			
持続的なまちづくり体制の構築	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた			
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			

様式2-2 地区の概要

北陸新幹線(仮)上越駅周辺地区(新潟県上越市)都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値				
大目標: 上越の新しい玄関口にふさわしい魅力的な都市づくり 目標1: 市街地環境を改善し、誰もがいきいきと働き、暮らせる拠点を形成する 目標2: 土地利用の効率化、乗換円滑化を実施し、交通結節機能を高め、駅を中心に様々な人の出会い、触れあいの拠点を形成する	生活道路に対する満足度	単位: %	38.8	H18	40	H23	24.2	H23
	釜蓋遺跡及び駅周辺まちづくりへの関心度	単位: 人/5年	0	H18	400	H23	450	H23
	住宅の新築軒数	単位: 軒/5年	99	H18	120	H23	122	H23
	まちづくり協議会等の開催数	単位: 回/5年	20	H18	40	H23	62	H23
	道路整備による道路環境の改善	単位: %	-	-	-	-	68	H23



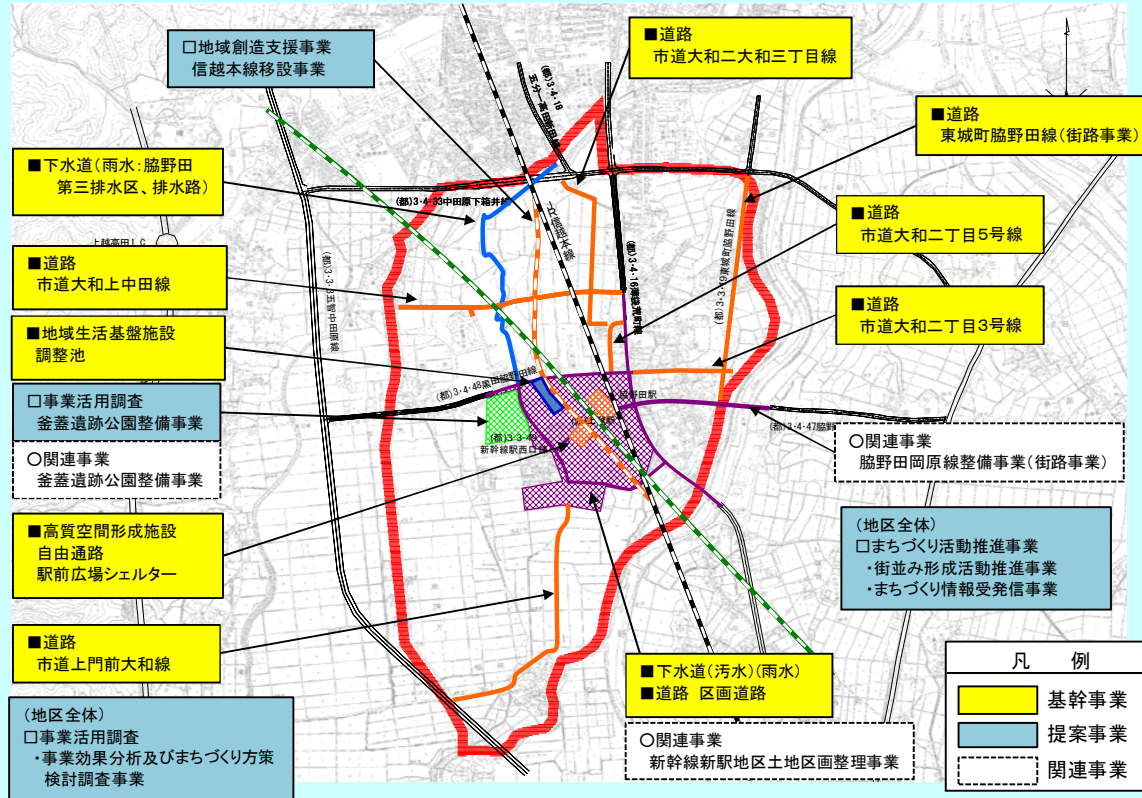
下水道(雨水: 脇野田第三排水区)



市道大和上中田線(工事中)



街並み形成活動推進事業



市道大和二三丁目線



市道大和二丁目線3号線



区画道路(区画整理地内)

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度末の北陸新幹線の開業に向けて、新駅周辺の土地区画整理事業、道路、下水道の一部工事が実施され、駅前広場、自由通路、駅前広場シェルター等の調査、設計などが行われ整備が推進している。 地域住民が参加する会議等により、「上越市新幹線駅周辺地区まちなみ形成構想」や「地区計画案」を策定し、魅力のあるまちづくりが進められている。 新駅周辺まちづくりに関連した「地区計画に関する地権者代表者会及び検討会」、「商業地域土地利用促進協議会」、「上越市新幹線駅周辺地区まちなみ検討会議」、「上越市北陸新幹線建設促進まちづくり協議会」や釜蓋遺跡に関する「市民フォーラム」、「市民シンポジウム」など、地域住民が参加する多くの会議等を実施し、まちづくりを推進している。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度末の北陸新幹線の開業のスケジュールにあわせて、新駅周辺の都市基盤の充実、交通結節機能の強化、周辺地域への波及効果を図る整備を継続して推進する。 上越らしさを活かしたまちなみ景観の形成、自動車の利便性と歩行者の回遊性を高めた、魅力ある駅周辺整備を推進する。 新駅周辺整備の状況に応じて地域住民が参加するまちづくりに関する会議等を支援して、地区の特性を活かしたまちづくりを推進する。

都市再生整備計画 事後評価シート(原案) (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業		当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
事業	事業箇所名	事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道大和上中田線	331	L=1100m(改良工)	126	L=1100m(設計・用地) L= 220m(改良工)	施工計画に基づき、事業期間内に実施する事業内容に変更	指標1(生活道路に対する満足度)に関係するが、指標及び数値目標は複数の道路の整備による数値であるため変更しない。		●
道路	市道大和二丁目5号線	103	L= 330m(改良工)	5	L= 330m(設計・用地)	施工計画に基づき、事業期間内に実施する事業内容に変更	同上	●	
道路	市道大和二丁目3号線	101	L= 210m(改良工)	79	L= 210m(設計・用地) L= 55m(改良工) L= 90m(側溝改良)	施工計画に基づき、事業期間内に実施する事業内容に変更	同上		●
道路	市道大和二大和三丁目線	60	L= 880m(改良工)	35	L= 880m(改良工)	なし	—	●	
道路	市道上前大和線	21	L= 900m(改良工)	12	L= 900m(設計・用地)	施工計画に基づき、事業期間内に実施する事業内容に変更	指標1(生活道路に対する満足度)に関係するが、指標及び数値目標は複数の道路の整備による数値であるため変更しない。	●	
道路	東城町脇野田線(街路事業)	515	L=1140m(改良工)	202	L=1140m(設計・用地)	施工計画に基づき、事業期間内に実施する事業内容に変更	同上		●
道路	区画道路(用地費含む)	942	L=2160m(改良工)	882	L=3192m(改良工)	土地区画整理事業の事業計画変更にあわせて変更	同上		●
公園	釜蓋歴史公園	204	A=5ha	0	A=0ha	釜蓋歴史公園に関する事業を関連事業としたため基幹事業から削除	指標2(釜蓋遺跡)に関係するが、釜蓋歴史公園に関する事業は関連事業に位置づけているため影響無し。	—	—
下水道	高田南部処理地区	382	L=8ha	254	L=9ha	土地区画整理事業の事業計画変更にあわせて変更	指標3(住宅の新築軒数)に関係するが、指標及び目標値は据え置く。		●
下水道	脇野田第二、第三排水区	159	L= 8ha	674	L= 18ha	土地区画整理事業の事業計画変更にあわせて変更	同上		●
下水道	脇野田第三排水区(排水路)	688	L=1710m	938	L=1278m	施工計画に基づき、事業期間内に実施する事業内容に変更	同上		●
地域生活基盤施設	調整池	—	なし	219	A=5000㎡	施工計画に基づき、事業期間内に実施する事業内容に変更	同上		●
高質空間形成施設	自由通路	—	なし	39	L= 80m	駅前広場の魅力を向上するため平成22年12月に計画変更して追加	指標3(住宅の新築軒数)に関係するが、追加した事業内容は設計だけのため指標及び数値目標は据え置く。		●
高質空間形成施設	駅前広場シェルター	—	なし	4	L=140m	駅前広場の魅力と向上するため平成22年12月に計画変更して追加	指標3(住宅の新築軒数)に関係するが、追加した事業内容は設計だけのため指標及び数値目標は据え置く。		●

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業

事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	信越本線移設事業	1136	L=1800m	616	L=1800m	施工計画に基づき、事業期間内に 実施する事業内容に変更	影響無し		●
事業活用調査	釜蓋遺跡公園整備事業	—	なし	11	—	釜蓋歴史公園に関する事業を基幹 事業から関連事業としたため平成 22年12月に計画変更して追加	釜蓋遺跡公園整備に関連する事業は当初から計画されているた め、指標及び数値目標に影響無し。		●
	事業効果分析及びまちづくり方策検 討調査事業	—	なし	3	—	平成23年3月に計画変更して追加	影響無し		●
まちづくり 活動推進事業	街並み形成活動推進事業	20	—	20	—	活動実績に基づき事業費を変更	影響無し	●	
	まちづくり情報発信事業	15	—	1	—	事業実績に基づき事業費を変更	影響無し	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考) 関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画		
土地区画整理事業		新幹線新駅地区	11,363	8,748	平成16年度～平成30年度	平成16年度～平成30年度	平成26年度末、北陸新幹線 開業に向け土地区画整理事業 の進捗を図る。	
街路事業		脇野田岡原線	3,500	3,500	平成19年度～平成25年度	平成19年度～平成25年度	平成26年度末、北陸新幹線 開業に向け事業の進捗を図る。	
釜蓋遺跡用地買収事業		釜蓋遺跡公園	1,110	—	平成18年度～平成31年度	—	—	
釜蓋遺跡公園整備事業		釜蓋遺跡公園	—	1,781	—	平成18年度～平成31年度	平成22年度末の時点で7割 強を取得済み。「歴史文化基 本構想」を策定し、史跡指定 地の約8%を発掘調査した。	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
			基準年度	基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	目標年度	モニタリング	事後評価	数値	モニタリング	事後評価	あり	なし	
指標1	生活道路に対する満足度	%	住民アンケートにより生活道路に対する満足度を調査し評価値を計測	-	-	38.8	H18	40	H23	モニタリング			モニタリング			●
										事後評価	確定見込み	●	24.2	事後評価	△	
指標2	釜蓋遺跡及び駅周辺まちづくりへの関心度	人/5年	平成19年度～平成23年7月末までの釜蓋遺跡に関するシンポジウムの参加者数を計測	-	-	0	H18	400	H23	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み	●	450	事後評価	○	
指標3	住宅の新築軒数	軒/5年	平成19年度～平成23年7月末までの建築確認申請の新築軒数より、平成23年度末での新築軒数を推計	-	-	99	H18	120	H23	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み	●	122	事後評価	○	
指標4	まちづくり協議会等の開催数	回/5年	平成19年度～平成23年7月末までの新駅周辺まちづくりに関する地域住民が参加する会議数を計測	-	-	20	H18	40	H23	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み	●	62	事後評価	○	
指標5										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み			事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	アンケート調査の結果から、事業で整備した道路により生活道路の満足度向上の傾向がみられ、道路環境の改善の一定の効果があつたが、平成26年度末の北陸新幹線開業に向けた道路整備のスケジュールにより計画道路の整備率が低いことから、1年以内の数値目標の達成見込みが困難である。	事後評価の計測値は住民アンケートを実施したが、従前値は市域全体の「市民の声アンケート」(H17年度)の結果であるため、本地区の道路整備に対する満足度の変化の評価が困難であった。そのため、指標1の評価を補完するため「その他の指標1」により道路整備による道路環境の変化をアンケート調査を実施した。
指標2	釜蓋遺跡に関するシンポジウムの参加者数を事業期間の5年間で400人を目標としたが、住民の新幹線駅周辺まちづくり及び釜蓋遺跡に関する関心が非常に高く、シンポジウムの回数(5回)を重ねることにより、目標を達成する成果をあげることができた。	
指標3	新駅周辺のまちづくりや土地区画整理事業の都市基盤整備の進展により、住宅の新築軒数が近年は増加傾向にあり、目標を達成する見込みである。	
指標4	新駅周辺まちづくりにより新しい拠点形成をするため、地域住民が参加するまちづくりに関する「地区計画に関する地権者代表者会及び検討会」、「商業地域土地利用促進協議会」、「上越市新幹線駅周辺地区まちなみ検討会」、「まちづくり協議会」の4つの会議を実施しまちづくりを推進している結果、目標を達成する成果をあげることができた。	
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)	
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	モニタリング	事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標1	道路整備による 道路環境の改善	%	-	-	-	-	モニタリング			68	・指標1「生活道路の満足度」の従 前値は市域全体を対象としたアン ケート調査であることから、本事業 による道路整備の効果を計測する ため。	指標1「生活道路に対する満足 度」を補完して道路整備の効果 を説明する。
							事後評価	確定 見込み	●			
その他の 数値指標2							モニタリング					
							事後評価	確定 見込み				
その他の 数値指標3							モニタリング					
							事後評価	確定 見込み				

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・住民アンケートでは、道路整備が完了した路線について、道路が広くなり車両や歩行者の安全性・利便性(特に通学路での安心感)が向上したこと及び、冬期積雪時の通行や除雪がしやすくなったとの意見が複数寄せられた。
 ・遺跡に関するシンポジウムは回を重ねるごとに参加者数が増加し、当地区のまちづくりへの関心が高まるとともに、「遺跡をまちづくりに生かそう」という住民の機運が高まった。
 ・まちづくり協議会等の開催により、良好な市街地形成を実現するための「地区計画案」が策定され、また住民主体で土地利用を推進するための「地権者組織の設立」に向け具体的な検討が行われた。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した	-	-
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
地区計画に関する地権者代表者会及び検討会 (新幹線新駅地区土地区画整理事業地区における住民参加と地区計画の策定等について)	予定どおり実施した	●【実施頻度】14回 【実施時期】平成20年度～平成22年度 【実施結果】 地権者の地区計画に関する理解を深め、地権者自身によるまちづくりにより住宅地域の地区計画の検討を実施した。なお、会議により整理したC地区の地区計画素案は、関係地権者の了解が得られ、今後都市計画法に基づく手続きをして正式に決定する予定である。	平成23年12月に都市計画法による地区計画の正式な決定を予定しており、その後地区計画に基づいた良好なまちづくりを推進する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
商業地域土地利用促進協議会 (新幹線新駅地区土地区画整理事業地区における住民参加と地区計画の策定等について)	予定どおり実施した	●【実施頻度】11回 【実施時期】平成22年度 【実施結果】 街並み形成活動推進事業により、市のゲートとしてのまちづくりを進めるため、地権者自身によるまちづくりにより商業地域の地区計画の検討を実施した。なお、会議により整理した地区計画案は、検討委員会総意として上越市に提出した。	平成23年12月に都市計画法による地区計画の正式な決定を予定しており、その後地区計画に基づいた良好なまちづくりを推進する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
上越市新幹線駅周辺地区まちなみ検討会議 (新幹線新駅地区土地区画整理事業地区における住民参加と地区計画の策定等について)	予定どおり実施した	●【実施頻度】10回 【実施時期】平成21年度～平成22年度 【実施結果】 街並み形成活動推進事業により、新幹線駅周辺地区における駅舎やその他の建築物等のデザイン、配置等の調和を図り、当該地区において統一された街並みを形成するため「上越市新幹線駅周辺地区まちなみ形成構想」を策定した。	新駅周辺整備において、「上越市新幹線新駅周辺地区まちなみ形成構想」に基づき、上越らしさを活かした施設の整備や街並み形成を推進する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
上越市北陸新幹線建設促進まちづくり協議会 (その他住民参加のまちづくりについて)	予定どおり実施した	●【実施頻度】27回 【実施時期】平成19年度～平成23年度 【実施結果】 協議会は、新駅周辺整備等のまちづくりについて協議し上越市の発展に資することを目的とし、総会、役員会、部会(金谷地区、大和地区、板倉地区、和田地区)が開催された。各部会では、地区の特性に応じた現地視察や研修会などが実施され、新駅周辺整備等のまちづくりへの理解の向上を図っている。	新駅周辺整備の進捗にあわせて、継続的に各種会議を開催することにより、まちづくりへの理解の向上を図りながらまちづくりを推進する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名：組織の概要	
なし	予定どおり実施した	—	—	—
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
事後評価庁内検討会議	関係部署課長級職員(都市整備課、道路課、生涯学習推進課、下水道建設課、建築住宅課、新幹線・交通政策課)	平成23年10月21日	新幹線・交通政策課 新幹線新駅周辺整備事務所 (交付金担当課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

種別	事業名・箇所名	指標2		指標3		指標4		その他の数値指標1	
		指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
			釜蓋遺跡及び駅周辺まちづくりへの関心度		住宅の新築軒数		まちづくり協議会等の開催数		道路整備による道路環境の改善
基幹事業	道路(市道大和上中田線)	—	土地区画整理事業など新駅周辺まちづくりの進展やまちづくり情報発信事業、釜蓋遺跡公園整備事業により、釜蓋遺跡及び新駅周辺まちづくりへの関心が高まった結果、「上越市歴史文化基本構想」に関連したフォーラム・シンポジウムに多くの人が参加した。また、これによりさらに釜蓋遺跡と新駅周辺まちづくりへの関心が高まるとともに多くの人の意見を聴取することができた。	△	土地区画整理事業による区画道路、下水道(雨水・汚水)の都市基盤整備、新幹線駅周辺まちづくりの進展により、住宅の新築軒数が増加した。ただし、整備が完成していない道路等の施設については、指標の改善に貢献できていないが、第2期計画以降に整備が完成することにより効果を発揮することを期待する。	—	新駅周辺まちづくりにより新しい拠点形成をするため、街並み形成活動推進事業により実施した「商業地域土地利用促進協議会」、「上越市新幹線駅周辺地区まちなみ検討会議」をはじめ「地区計画に関する地権者代表者会及び検討会」、「まちづくり協議会」の4つの地域住民が参加するまちづくりに関する会議を実施し、まちづくりを推進している結果、多くの方がまちづくりに参画する機会が増加し、まちづくりへの関心や参画意識を高めることとなった。	△	計画道路の一部だけの整備であるが、道路が広がったことによる、安全性や利便性などの向上により、アンケート結果では道路環境が「良くなった」、「少し良くなった」の回答が68%であった。残りの計画道路の整備の早期完成を望む意見も多数あり、計画道路の整備に対する期待が大きいと感じられる。
	道路(市道大和二丁目5号線)	—		△		—		△	
	道路(市道大和二丁目3号線)	—		△		—		◎	
	道路(市道大和二大和三丁目線)	—		○		—		◎	
	道路(市道上門前大和線)	—		△		—		△	
	道路(東城町脇野田線)	—		△		—		△	
	道路(区画道路(用地費含む))	—		◎		—		◎	
	下水道(汚水・高田南部処理地区)	—		◎		—		—	
	下水道(雨水・脇野田第二・第三排水区)	—		◎		—		—	
	下水道(雨水・排水路)	—		○		—		—	
	地域生活基盤施設(調整池)	—		○		—		—	
	高質空間形成施設(駅前広場シェルター)	—		△		—		—	
	高質空間形成施設(自由通路)	—		△		—		—	
提案事業	信越本線移設事業	—	△	—	—				
	釜蓋遺跡公園整備事業	◎	—	—	—				
	事業効果分析及びまちづくり方策検討調査事業	—	—	—	—				
	街並み形成活動推進事業	○	—	◎	—				
	まちづくり情報発信事業	◎	—	○	—				
関連事業	土地区画整理事業	○	◎	○	—				
	街路事業(脇野田岡原線)	—	△	—	△				
	釜蓋遺跡公園整備事業	◎	—	—	—				

※指標改善への貢献度

◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。

○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。

△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。

—：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	今後も市民の意見を聞いて釜蓋遺跡公園整備事業の推進を図る。	未完成の計画道路や計画下水道の整備を進めることにより住宅の新築軒数の増加を図る。	これまでの地域住民が参加するまちづくりに関する会議等を引き続き行い、新駅周辺まちづくりを推進する。	未完成の計画道路の整備を進めることにより道路環境の改善を図る。
-------	-------------------------------	------------------------------------------	---------------------------------------------------	---------------------------------

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			指標3			指標4		
指標名		生活道路に対する満足度											
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路(市道大和上中田線)	△	平成26年度末の北陸新幹線開業に向けた道路整備のスケジュールにより未完成のため、地区全体では目標は未達成だったが、道路整備をした箇所については、アンケート結果から道路環境の改善が進んでいることが確認され、満足度が向上する傾向が見られ、道路整備の一定の効果があった。	I									
	道路(市道大和二丁目5号線)	××											
	道路(市道大和二丁目3号線)	△											
	道路(市道大和二大和三丁目線)	△											
	道路(市道上門前大和線)	××											
	道路(東城町脇野田線)	×											
	道路(区画道路(用地費含む))	△											
	下水道(汚水:高田南部処理地区)	—											
	下水道(雨水:脇野田第二・第三排水区)	—											
	下水道(雨水:排水路)	—											
提案事業	地域生活基盤施設(調整池)	—											
	高質空間形成施設(駅前広場シェルター)	—											
	高質空間形成施設(自由通路)	—											
	信越本線移設事業	—											
	金蓋遺跡公園整備事業	—											
関連事業	事業効果分析及びまちづくり方策検討調査事業	—											
	街並み形成活動推進事業	—											
	まちづくり情報発信事業	—											
	土地区画整理事業	—											
	街路事業	×											
	金蓋遺跡公園整備事業	—											

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類I: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類II: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類III: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類IV: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	本地区の事業は平成26年度末の北陸新幹線開業に向け推進する必要がある。そのため、未完成の生活道路は地区全体の事業進捗状況と調整した整備を推進する。			
------------------	---------------------------------------------------------------------------	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織(庁内検討会議)	関係部署課長級職員(都市整備課、道路課、生涯学習推進課、下水道建設課、建築住宅課、新幹線・交通政策課)	平成23年10月21日	新幹線・交通政策課 新幹線新駅周辺整備事務所(交付金担当課)

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
新駅周辺の都市基盤の整備	新駅周辺の都市基盤を一体的に計画し事業を進めることにより、道路、下水道等の整備や新駅周辺施設の調査、設計が進み、市の新たな顔づくりに向けた新駅周辺整備が推進した。	平成26年度末の北陸新幹線の開業に向けて、市の新たな顔づくりにふさわしい新駅周辺の都市基盤を整備するため、継続して新駅周辺整備を推進する必要がある。	魅力的な都市機能を有する土地利用の実現を図るため、地域住民が参加するまちづくり組織が主体的にまちづくり活動を行う必要がある。
魅力的な都市機能の誘導	交通結節点機能を強化する信越本線移設事業の進展や地域住民が参加するまちづくりに関する会議において、上越市新幹線駅周辺地区まちなみ形成構想及び地区計画案が作成されたことにより、賑わいのある魅力的な都市機能を誘導するための環境整備が進んだ。	平成26年度末の北陸新幹線の開業に向けて、魅力的な都市機能の誘導を図るため、今後さらに環境整備を推進する必要がある。	
新駅周辺整備効果の周辺地域への波及	市道、街路など新駅へのアクセス道路の一部の工事、調査、設計、用地買収などが実施され、道路整備が進んだことにより道路環境の改善が図られた。	平成26年度末の北陸新幹線の開業に向けて、新駅へのアクセス道路の整備を継続することにより、新駅周辺整備効果を周辺地域への波及を図る必要がある。	
遺跡の保全と活用	ホームページ、パンフレットなどにより釜蓋遺跡及び新駅周辺のまちづくりをPRすることにより、遺跡に関する市民フォーラム、シンポジウムに多くの方が参加し、遺跡の保全・活用に関して多くの人の意見を聴取することができた。	新駅周辺のまちづくりの進捗にあわせて、「上越市歴史文化基本構想」の実現に向けた遺跡の保全と活用を図る釜蓋公園の整備を進める必要がある。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	市の新たな顔づくりにふさわしい魅力のある 新駅周辺整備の継続	平成26年度末の北陸新幹線の開業のスケジュールにあわせて、新駅周辺 の都市基盤の充実、交通結節機能を強化、周辺地域への波及効果を 図る整備を継続して推進する。	・道路(大和上中田線、大和二丁目5号線、大和二丁目3号 線、東城町脇野田線、区画道路、脇野田岡原線) ・下水道(汚水:高田南部処理地区、雨水:脇野田第二・第三 排水区、排水路) ・地域生活基盤施設(調整池) ・高質空間形成施設(自由通路、駅前広場シェルター) ・信越本線移設事業 ・土地区画整理事業
	地域住民が参加するまちづくりの推進	新駅周辺整備の状況に応じて地域住民が参加するまちづくりに関する会 議等を支援して、地区の特性を活かしたまちづくりを推進する。	・地域住民が参加するまちづくり活動を推進

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策	平成26年度末の北陸新幹線開業に向けた 未完成の施設の事業の推進	平成26年度末の北陸新幹線の開業にむけて、新駅周辺の都市基盤の充 実、交通結節機能を強化、周辺地域への波及効果を図る整備について、 スケジュールにあわせて推進する。	・道路(大和上中田線、大和二丁目5号線、大和二丁目3号 線、東城町脇野田線、区画道路、脇野田岡原線) ・下水道(汚水:高田南部処理地区、雨水:脇野田第二・第三 排水区、排水路) ・地域生活基盤施設(調整池) ・信越本線移設事業 ・土地区画整理事業
	魅力のある新駅周辺整備の推進	上越らしさを活かしたまちなみ景観を形成するとともに、多くの人が新駅 周辺に来やすく、歩行者が安全・安心で快適に新駅周辺を散策できるよ うに、自動車の利便性と歩行者の回遊性を高める魅力ある新駅周辺整 備を推進する。 地域住民が参加するまちづくり組織の主体的な活動により、魅力的な都 市機能を有する土地利用の実現を図る。	・高質空間形成施設(自由通路、駅前広場シェルター) ・高質空間形成施設(電線類地下埋設施設:電線共同溝) ・地域生活基盤施設(駐車場) ・まちづくり組織による土地利用に関する主体的なまちづくり 活動を推進
	「上越市歴史文化基本構想」の実現に向け た整備の推進	遺跡の確実な保存と適切な活用を図るため釜蓋遺跡公園の整備を推進 する。	・釜蓋遺跡公園整備

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

降雪量の多い地域のため、積雪時の雪対策を考慮した新駅周辺の都市基盤の整備を進める必要がある。

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標			従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み		あり	なし	予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	生活道路に対する満足度	%	38.8	H18	40	H23	確定 ●	24.2	△	あり ●	→	平成27年内	住民アンケートにより生活道路に対する満足度を調査し評価値を計測する。	整備効果の発現が期待される第2期計画の道路整備が概成次第実施
指標2	釜蓋遺跡及び駅周辺まちづくりへの関心度	人/5年	0	H18	400	H23	確定 ●	450	○	あり ●	→			
指標3	住宅の新築軒数	軒/5年	99	H18	120	H23	確定 ●	122	○	あり ●	→	平成24年4月	平成24年3月31日における、建築確認申請の結果を整理し確定値を求める。	
指標4	まちづくり協議会等の開催数	回/5年	20	H18	40	H23	確定 ●	62	○	あり ●	→			
指標5							確定 ●			あり ●	→			
その他の数値指標1	道路整備による道路環境の改善	%	—	H			確定 ●	68			→			
その他の数値指標2				H			確定 ●				→			
その他の数値指標3				H			確定 ●				→			

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		<ul style="list-style-type: none"> ・事業途中にデータが算出できる指標はモニタリングが容易となることから、指標を設定する際には計測のことも考慮し検討する。 ・全体事業規模が大きく事業期間が長期化する事業は、都市再生整備計画期間における事業の途中段階での適切な目標及び指標の設定が必要である。
	うまくいかなかった点	<ul style="list-style-type: none"> ・生活道路に対する満足度の指標は、本計画の最終年度での本地区整備状況と目標値となる市民の声アンケート結果(市平均整備状況)との違いが大きく、高い目標値が設定されていたと考えられる。 	
数値目標と目標・事業との整合性等	うまくいった点		<ul style="list-style-type: none"> ・都市再生整備計画の作成時には、事後評価の実施を考慮して指標を設定する。 ・従前値は、数値的根拠のある指標とし、算出方法を記録しておく必要がある。
	うまくいかなかった点	<ul style="list-style-type: none"> ・生活道路の満足度の従前値について、地区住民アンケートを実施しないで市民の声アンケート結果としていたため、本事業による整備効果の検証が困難であった。 ・住宅の新築軒数の指標は、事業による建物移転補償での軒数が含まれることから、事業による都市基盤の充実の効果を明確に出来なかった。 	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	<ul style="list-style-type: none"> ・駅周辺まちづくりに関連した地域住民が参加する会議や釜蓋遺跡に関するシンポジウムに多くの方が参加したことは、多くの意見を聴取することができ「上越市新幹線駅周辺まちなみ形成構想」「地区計画案」の作成につながり、魅力のあるまちづくりが進んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も平成26年度末の北陸新幹線の開業に向けた事業の進捗にあわせて、住民参加により地区の特性を活かしたまちづくりを推進する。
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		<ul style="list-style-type: none"> ・交付期間中のモニタリング実施は、事業の進捗を把握するためにも有効である。
	うまくいかなかった点	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングを実施しなかったため、事業途中での客観的な評価ができず、整備計画の変更時における数値目標の適切性が確認できなかった。 	
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6ー参考記述 今後、都市再生整備計画の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後の都市再生整備計画の活用予定
 平成26年度末の北陸新幹線の開業のスケジュールにあわせて新駅周辺の整備を推進するため、第1期計画の経験活かして第2期都市再生整備計画を作成する。

・今後、事後評価を予定する地区
 本市においては、平成24年度に八千浦地区、関川東部下門前周辺地区、土橋南地区の3地区において事後評価を実施の予定であり、当地区を含めた過去に実施した事後評価の経験を踏まえて、円滑に事後評価を実施したい。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載 原案の公表	H23.11.7～11.21	H23.11.7～11.21	担当課への電話、 FAX、電子メール等	新幹線・交通政策課 新幹線新駅周辺 整備事務所
広報掲載・回覧・個別配布	広報に新幹線新駅周辺整備事務所窓口 及び市のホームページでの原案公表に ついて掲載	H23.11.1発行 広報じょうえつ			
説明会・ワークショップ	—				
その他	新幹線新駅周辺整備事務所 窓口での原案の公表	H23.11.7～11.21	H23.11.7～11.21		

住民の意見	<p>1. 本整備計画の「目標」は、本計画後に策定された「新幹線新駅周辺地区の土地利用方針」に合わせて地区の基本的な位置付けを明確にする方向で修正すべきである。すなわち「土地利用方針」では、「上位計画等に基づく新駅周辺地区の位置付け」として「〇広域的（北信越地域）な拠点性の強化 ・ゲートウェイとしての特性を活かした整備 ・質の高い新都市空間の形成 ・既存市街地の機能の強化」とされたものである。このことは、本「目標」で位置付けられたような単なる「玄関口」ではなく、「広域的な都市拠点」をイメージするものである。また、そのことの打ち出しと事業展開が、実際的にも人、物、情報等を広範囲かつ威力をもって呼び込み、あるいは強力に発信する効果をもたらすものとなることも認識すべきである。</p> <p>2. 「指標1 生活道路に対する満足度」を「その他の数値指標1」で補完し、効果発現の計測とするという手法は、極めて恣意的である。一般論として、道路が改良整備されれば、それを利用する人にとっては、その範囲で環境が改善されたと感じることは当然のことであり、それ以上でも以下でもない。しかし、それは、（都市再生）整備計画の本来あるべき評価とは別物である。真に評価すべきことは、全体の、あるいは当初の整備計画から見て満足に進捗しているか、言い換えれば当初計画と現状を比較して果たして満足できるものとなっているかどうかであり、そのことが設問され、結果が導き出されなければならない。そうでなければ、事業の遅れに合わせて事業内容を変更し、その変更した事業内容で「完成」とか「完成見込み」とする事業者（市）の一方的で場当たりの事業執行そのものを正当化するものでしかないものとなる。そのような場当たりの恣意的な視点でない、もっと総合的で科学的な評価が本来必要である。この事後評価が「事業の成果や目標達成状況などを検証し、今後のまちづくりのあり方を検討するため」であるならば、なおさら上記の視点について敏感であるべきである。</p> <p>3. 2と関連するが、基幹事業としての「生活道路の整備」に対して、事業者（市）側に熱意（事業進捗の意欲）が決定的に足りない、と言わざるを得ない。一部の事業の進捗が大変遅れていることは大変遺憾でゆゆしきことである。繰り返しになるが、事業の遅れに合わせて事業を変更し、それに対して「完成」とか「完成見込み」としているが、このような記述は全く意味がないばかりでなく、全体として事業の遅れを正当化するものとなっている。全体計画は、3期15年の計画だが、このままではこの期間内に当初の計画が完了しない可能性が高いのではないかと危惧される。したがって、第1期の取組の深い反省に立って、遅れを取り戻すための検証・評価と抜本的な対策を打ち立て、総力を結集して確実に実行する姿勢を示すべきである。何を置いても、そのための検証・評価こそ、今一番大切なことである。</p> <p>4. 第2期計画以降の課題として、新幹線駅前のシンボルとなるような公共による観光・情報・交流等の核施設の整備を具体的に検討し事業掲載すべきである。駅周辺の賑わいと広域的な交流を創出するとともに地域住民のコミュニティ活動にも資するような施設が、広域的な拠点地域にぜひとも必要である。そのための検討（評価）が何らなされていないことは遺憾である。このことを市が意欲的積極的に行うかどうか、商業・業務施設進出のインセンティブ効果を生み出せるかどうか、あるいは新幹線開業効果を持続的に地域活性化に結び付けていけるかなどに、強く影響するものと思われる。市議会では、前市長が「土地区画整理事業の工事概成が図られる頃までに（核施設の）具体化を目指す」と答弁している。これは、第2期計画の時期に属するものであり、このことから具体的な事業掲載が不可欠である。</p> <p>5. 第2期計画では、当初の計画通り、第1期計画で完了できなかった事業の早期完成を図るとともに、第2期計画に予定した事業を全て掲載し速やかな進捗を図るべきである。</p>
-------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	中出 文平 : 長岡技術科学大学教授	H23.11.28	新幹線・交通政策課 新幹線新駅周辺整備事務所	上越市都市再生整備計画評価委員会設置要綱	既存組織を改めて委員に委嘱
その他の委員	青木 ユキ子 : エコグリーン代表 斎京 稔 : 上越信用金庫理事相談役 羽尾 姜子 : 国際ソロプチスト会員 (欠席) 保坂 桂子 : (株)アルゴス社員 宮下 好文 : 新潟県上越地域振興局長				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・成果の評価に関して以下の意見があったが、指標1～4、その他の数値指標1の評価結果について了承された。 ・指標1の従前値と評価値は比較ができないため、次期計画では指標などの設定を改善すべきである。 ・目標値の設定は、計画的に行うべきである。 ・指標4「まちづくり協議会等の開催数」は実施過程の評価の住民参加プロセスの実施状況と同じ内容となるため、参加人数なども評価対象とするなど違う効果が確認できる指標とすることが望ましい。 ・整備が完了していない状況で、指標に表れない事業効果の評価するためには、定性的な効果発現状況を充実させることが望ましい。
	実施過程の評価	・住民参加プロセスの実施状況として、多くの会議が開催されたことにより、地域の方々の意識が向上したことは大変重要である。
	効果発現要因の整理	・信越線移設事業はまだ移設を実施していないため、直接的に効果が発現することはないが、次期計画期間中には移設されるので、事業の効果発現要因を確認できる指標を設定する必要がある。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案が市民に対して適正に公表されたことが確認された。
	その他	・特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると確認された。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・在来線やアクセス道路の活用により、既存の中心市街地と連携させることが重要である。 ・次期計画の整備を確実に進めるためには、関係機関との調整を十分に行うべきである。 ・今後のまちづくりを進める上では、住民参加をさらに広げていくことが必要である。
	フォローアップ	・フォローアップ計画について確認された。
	その他	・地区の特色を出すためには、魅力的な提案事業を計画することが大事である。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると確認された。
その他	・計画に対する事業の進捗状況を住民によく周知すべき。	